

愛知県議会議員

— 自民党 2 期 —

神谷 和利



スギ人工林は、国民の4割以上が患っている花粉症の主要な発生源であり、対策が急務となっています。国の「花粉症に関する関係閣僚会議」は昨年10月、「花粉症対策初期集中対応パッケージ」

昭和36年1月2日生まれ。豊田市柿本町3-34。愛知県議会教育・安心スポーツ委員会委員。同安全・安心対策特別委員会副委員長。自民党愛知県第11選挙区副支部長。元豊田市議会議員。愛知県森林協会副会長。豊田市少林寺拳法協会会長。ボーイスカウト豊田地区副協議会長。

林業労働力の確保・育成が急務

を決定しました。このパッケージでは発生源対策として、スギ人工林の伐採・植替え等の加速化、スギ材需要の拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大、林業の生産性向上及び労働力の確保等を着実に実行

していくとされています。具体的には10年後の令和15年度には、全国愛知県はスギ人工林全域を伐採重点区域に

こととなります。間伐ではなく皆伐を進めるにあたっては、越えなくてはならないハードルがあります。伐採・搬出コストだけでなく、植林・育林のコストまで含め、採算が合う制度設計が必要

然、それを担う林業労働力の確保・育成も急務となります。そして林業従事者の定着のためには、製造業をはじめとする他産業との賃金格差を是正する処遇改善が必要です。自治体に配分される年間約600億円の森林環境譲与税は、配分額の20%が各自治体の林業従事者数を基準に算定されます。花粉症による労働生産性低下がもたらす経済損失は、1シーソン5兆円と報告されています。林業従事者の処遇改善に充てる費用対効果は十分あるはずです。

愛知県は人口も多くなり、ギ花粉の影響も大きい。そのため、県内のスギ人工林5万ha全域を「スギ人工林伐採重点区域」に設定しました。つまり準備ができたところから順次、速やかに伐採を進めていくという

であり、新たな国の支援拡充は不可欠です。本県の人工林伐採後に再度植栽を行った面積は、過去3年間平均で僅か17・3haです。スギ花粉発生源対策に積極的に取り組むため伐採面積を増やせば当

は十分あるはずです。